

事務事業名	通学バス運行委託事業	事務事業No.	20103000142	所属課	学校教育課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
旧岩瀬町で昭和60年度の長方、下泉、大泉、富谷、門毛、小塩分校の廃止により、旧分校学区の1から3年生までを対象に通学時の安全の確保と利便性の向上のために通学バスでの送迎運行を始めた。 旧真壁町では昭和53年酒寄分校廃止により、分校に通っていた1、2年生が筑波鉄道利用となったため、通学費の補助が開始された。その後鉄道が廃止されバス路線になったが補助事業は継続された。合併後対象が3年生まで引き上げられた。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
分校廃止に伴い行っている事業であるが、通学バス対象区域以上に遠距離から通学している他区がある。他の地区についても見直す必要がある。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 遠距離の区域から小学校へ通学する低学年児童の安全を確保することは、教育環境の整備に結びつく。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 小学校低学年児童の登下校時の安全対策として実施することは、市が行うべきである。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 限られた時間内での安全確保が最優先である。児童数の減少による運行ルートや利用する児童数に応じて適切なバスの車種を選定などの検討が必要。
公平性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 少子化による通学班が減少する中で、事業を廃止した場合は、児童の安全確保が難しい。
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合)
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業はない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 今後当該地区での公共交通網が整備されれば、事業費の削減は期待できる。一方で、小中学校適正配置が進むことで遠距離通学者が増加するため事業費は増える。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 遠距離から長時間の徒歩で通学するには安全上の危険性が増すことから、通学支援は妥当である。一方で他の小学校区でも遠距離通学児童も見受けられ、小中学校適正配置計画を進める上で検討が必要である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	・小学校分校廃止に伴い行われている事業であり対象地区から通学する児童の安全確保に必要である。 他の地区でも遠距離通学児童が見受けられ、通学バス利用の要望もある。今後、利用者や学校・PTA等の意見、地域の交通事情等を調査、検討する必要がある。 令和3年度より羽黒小学校区(旧猿田小学校区対象)での運行を開始した。																									
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">成果</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		成果		コスト			削減	維持	増加	向上				○	維持				×	低下				×
成果		コスト																								
		削減	維持	増加																						
向上				○																						
維持				×																						
低下				×																						
桃山学園では通学距離が低学年の児童で2.5km以上、高学年の児童で3.5km以上ある児童に対して通学支援をしている。また、徒歩通学を原則とし、悪天候時は安全面を考慮し、支援対象でない児童に対しても自費負担でバスの利用を許可している。 桃山学園以外については、統合配合時の名残で通学距離に関係なく、特定の地区が支援対象となっており、市内の学校間において差があるため、ゆくゆくは通学支援対象者の基準の統一が必要と考えられる。		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認